

川根のせせらぎとお茶畑

焼津市内中学校

野中さん

なのだひへ、と静けさました。お茶も育たず、飲み水も使えなくなり、川の生き物たちも寂しそうに暮らります。樂しかった水遊びをしていぬ子どもたちの姿を見ながら、この水を汚してはいけないと想いました。

夏休みになると、僕の家族はよく川根へキャンプをして行きます。川の上流にテントを張ると、すぐにさわやかで水の音が流れています。風間、川に足を入れると驚くほど冷たく、手でさわると光を反射してあらわる輝きます。夜になると、川のせせらぎに囲まれる虫の声が聞こえ、満天の星が頭上に広がります。その大自然の中にいると、「この川は生きているんだ」と感じます。

祖父母は牧之原でお茶農家をしていました。小さいころの祖父に連れて茶畑を歩いたとき、祖父は「お茶は水が命なんだよ」と語っていました。そのときは深く考えませんでしたが、川根で冷たい川の水を体いっぱいに感じると、祖父の言葉がふつとよみがえります。

大井川の水が茶畑を潤し、あの広大な牧之原のお茶を育してきました。と思つて、自然の恵みの大ささに気がつかれます。

川根の水はとてもきれいで、川原にじみが落ちているのを見かけたことがあります。ペットボトルやパーカー袋が草の間に引つかかっていました。そのとおり、もじりのじみで水が汚れてしまつたのです。

僕は川根で過ごした時間を思い出すと、ただ樂しかっただけではなく、いろいろなことを考えるきっかけになつたと思います。川のせせらぎや茶畑の景色が、眞實や映像では伝えきれない特別なものでした。冷たい水の感触や、夜に見上げた満天の星空は、今でも目を閉じればはつきり思い出せます。その体験があつたからこそ、祖父の言葉の意味や、自然のありがたさを少しあつ理解できたのになつたのだと思

います。川根で過ごした日々は、遊びながら自然に教えてもらった大切な授業のようでした。

これから的生活の中で、僕は水や自然をもっと大事にしていきたいです。たとえば、学校の水道で水を出しつづなしにしないことや、外でじみを見つけたら拾うこと。本当に小さなことですが、そうした行動の積み重ねが自然を守る力になると思います。また「川根でこんな体験をしたよ」と話せば、きっと自然のことを考える人が少しづつ増えるはずです。自分ができることはまだ小さいけれど、やらなければ何も変わらないので、まずは自分から行動していきたいと思います。

そして僕は将来のことを考えると、自然を守る活動にも関わってみたいと思います。川や海の清掃活動に参加したり、環境について学んだりするのもよい経験になると思います。祖父母が大切にしてきた茶畑や、川根の自然は、僕にとってただの思い出ではなく、守っていきたい大切なものです。もし大井川の水がなくなつてしまつたら、牧之原のお茶畑もなくなり、僕の心の中にあの「ふるわど」の景色も消えてしまうかもしません。そう考へると、今のうちから自然と向き合ふことの大切さを強く感じました。川根での体験は、これから自分の生活を考えるきっかけになりました。

川根のせせらぎに耳を澄ますと、心が落ち着いて、なぜか安心でき

ます。その音はただの水の音ではなく、自然からのメッセージのようになります。「やつてね」「忘れないでね」そんな声が聞こえてくる気がしました。そして、なによりも川根で感じたことを伝えるために、この作文を書いたと思いました。川の冷たさや茶畑の緑、夜空の星の美しさは、言葉にしてもすべてを表すことはできません。それでも、少しでもみんなが「自然って大事なんだな」と思ってもらえた嬉しいです。